排水機場・排水路の改修により地域の湛水被害を軽減　【京都府京都市、宇治市、久御山町】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

○　干拓地周辺の開発により、農地や農業用施設の湛水被害が深刻化。

○　巨椋池排水機場の建替に加え、導水する排水幹線等を整備し、増強された排水能力を生かし、湛水被害を軽減し、高収益作物の生産を拡大。

【取組地域の概要】

○位置
京都府京都市、宇治市、久御山町

○主要作物
・水稲、なす、九条ネギ、コマツナ等

○主要施設
・排水機場　1箇所（改修1箇所）
・開水路　7.3km（受益面積1,310ha）

○主な支援施策
・国営総合農地防災事業（H9～H18）
・府営農地防災事業（H16～H30）

基盤

農地や農業用施設の湛水被害を軽減

排水機場及び排水路の改修により排水能力及び流下能力の向上が図られたことにより、豪雨時の湛水被害の発生が軽減され、地域の安全を確保。

事業実施後は速やかに排水

整備後の水路

基盤整備
（H9年～H30年）

【整備前】
受益地は周辺地域より低い干拓地であり、豪雨のたびに、農作物や農業用施設、公共施設に湛水被害が発生。

事業実施前の湛水状況

整備前の水路

生産現場

安定的な農業経営の確保

○　豪雨時においても湛水面積が縮小したことから、野菜や花きの作付面積の拡大が進み、安定的な営農が実現。

九条ネギの作付

淀大根の作付

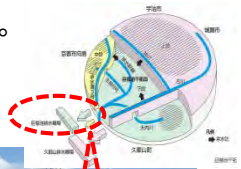
地域の取組

地域の安全性向上

○　本地区は干拓地であり、豪雨時の強制排水が不可欠。

○　住宅地・道路・公共施設の湛水を防止し、地域住民の生活安定に寄与。

干拓地の排水のしくみ



湛水被害の軽減と財政健全化への貢献

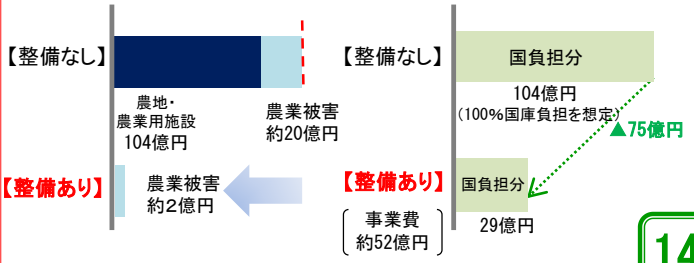
○　平成24年8月14日の豪雨においては、日雨量約320mmの降雨があったが、排水幹線の改修により排水機場能力が遺憾なく発揮され、湛水被害が大幅に軽減された。

農業関係想定被害額

○　**約122億円の想定被害を軽減。**

復旧想定額

○　事業実施後は、20年に1度想定される規模の豪雨1回あたり**約75億円の国費を縮減。**



高収益作物（なにわ伝統野菜等）＋産学連携・女性活躍で地域活性化【大阪府南河内郡河南町（みなみかわちぐんかなんちょう）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

○ 基盤整備を契機に、農事組合法人を設立し直売所を運営。消費地に近い立地を活かし、朝採野菜、なにわ伝統野菜など、多品目の周年出荷により販売額が増加。

○ 農家女性や産学連携による商品開発により競争力を強化。

○ 大区画、かんがい施設を活かしたICT活用によるスマート農業を展開。

【取組地域の概要】

○位置　大阪府南河内郡河南町（みなみかわちぐんかなんちょう）

○主要作物
・なす、いちじく、田辺大根、毛馬キュウリ等

○主な支援施策
・府営農地開発事業（S58～H15）
・府営農免農道整備事業（S57～H8）
・府営中山間地域総合整備事業（H10～H23）
・多面的機能支払交付金（H19～）
・地方創生推進交付金等（H28～H30）

基盤

農地造成、畑地かんがい施設の整備により高収益作物の生産基地を形成

基盤整備により、難波葱、田辺大根、毛馬胡瓜等の“なにわ伝統野菜”や、なす、胡瓜、いちじくの朝採等、都市近郊の立地を活かした高収益作物の生産基地を形成。

田辺大根

毛馬キュウリ

パイプラインによる営農

整備後のほ場

基盤整備（S58年～H13年）

【整備前】
ゆるやかな丘陵地に、谷地田やみかん畑が複雑に入り組んだ地形で、非効率な営農環境。

生産現場

ICT活用によるスマート農業を実践

○ 担い手の一部が、露地栽培に加え、規模拡大とともに中古ハウス3棟（約40a）を移設し、養液土耕栽培（パプリカやトマト等）を新たに開始。

○ スマートフォンでも遠隔操作可能な自動養液調整・かん水システムを導入し、養液や給水にかかるハウス内作業（1～2回/日）の省力化が実現。

○ 適正な液肥量や室温設定などの栽培データを蓄積し、新規就農者へのアドバイス等に活用している。

自動養液調整・灌水システム

スマホで操作

ハウス内部

加工・流通

女性の活躍や産学連携による商品開発

○ 基盤整備を契機に設立された「農事組合法人かなん」が地域の女性を雇用し、米粉スパゲッティや無添加ジャム等を商品開発。

○ さらに府内大学（2校）とも産学連携し、伝統野菜を使用した道の駅弁当や米粉パン等も開発。

○ 若者間での口コミ、SNSなど道の駅かなんの間接的なPRに寄与。

女性による商品開発

大学生による販売

「なにわ伝統野菜」や多品目周年出荷新たな商品開発による販売額の増加

○ 農産物直売所「道の駅かなん」の集客数および販売額は、それぞれ2倍、3倍に増加。（販売額は3億円を突破！）

道の駅かなん：農事組合法人設立（H16）にあわせ供用開始

○ 商品開発のため、農事組合法人が、地域の女性を24名雇用。

○ 直売所に調理室を増設し、6次産業化の更なる促進を図る。

リニューアル後の道の駅

増設された調理室

基盤整備を契機とした新たな農業経営の拡大と雇用の創出

【兵庫県加古川市（かこがわし）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

○ パイプライン化や暗渠排水の整備を契機に、法人組織等の担い手に農地の集積・集約を進め生産規模を拡大。

○ 排水性を改善し、付加価値の高い新たな作物の導入と加工・販売に取り組み地域の雇用創出に貢献。

【取組地域の概要】

○位置　兵庫県加古川市八幡（かこがわし　やはた）

○主要作物
・水稲、小麦、大麦、大豆、キャベツ等

○主要施設
・パイプライン30.7km、排水路5.0km、暗渠排水3.8ha

○主な支援施策
・県営ほ場整備事業（S46～S53）
・経営体育成基盤整備事業（H19～H27）

基盤

パイプライン化や乾田化により、高収益作物の生産を拡大

パイプライン化や排水路のコンクリート底張化により、維持管理の負担を軽減するとともに、暗渠排水を整備し、高収益作物の生産拡大を実現。

基盤整備
（H19年～H27年）

【整備前】
開水路及び土排水路のため、管理に負担が掛かるとともに、各所に排水不良が見られ、麦などの畑作物の生産量が大きく減少。

生産現場

付加価値の高い作物の生産拡大

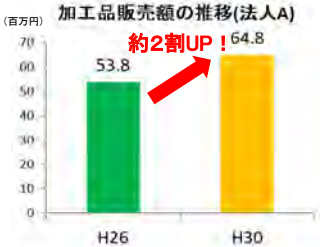
○ キャベツ、なす等の野菜の作付面積が約4倍に拡大。

○ 加工品開発を見据え、国産デュラム小麦の新品種であるパスタ用の「セトデュール」に着目。本地区において積極的に導入を図り、小麦の作付面積を約2.5倍に拡大。

加工品の販売や提供等による雇用の創出

○ 地区内で生産された農産物を使用した、弁当、惣菜等加工品の販売や、そば、「セトデュール」で作ったパスタ等を直売所内のレストランで提供。

○ この結果、加工品の販売額は、近年5ヶ年の比較で約2割増加。



○ 従業員8名、パート11名を雇用していることに加え、農繁期には、臨時の作業員を10名程度登録するなど、地域の雇用創出や女性活躍に貢献。

＜法人Aの雇用人数(H30)＞

	男性	女性
従業員	5人	3人
パート	2人	9人
計	7人	12人

担い手

担い手の確保

○ 基盤整備により営農条件が向上した結果、地区内の認定農業者は2倍に増加(4人→8人)。

高収益作物の導入により安定した農業収入を実現し、高齢化に歯止め！【和歌山県御坊市（ごぼうし）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

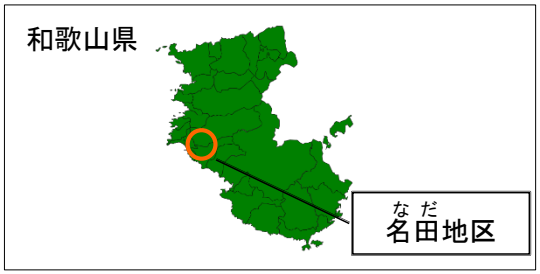
○　生産者自らが主体となり行った消費者ニーズの研究や温暖な自然環境を踏まえ、花きの施設栽培へ転換。

○　生産量日本一を誇るスターチスは、市場出荷量の少ない時期に出荷され経営の安定に寄与。

○　安定したかんがい用水を送水するため、管理者で直営施工できるよう技術力の維持向上体制を整備。

【取組地域の概要】

○位置
和歌山県御坊市（ごぼうし）（特定農山漁村）



○傾斜
・標高5m～50mに至る傾斜地

○主要作物
・花き（スターチスなど）

○主な支援施策
・県営・団体営畑地かんがい事業(S37～S41)
・県営かんがい排水事業(S61～H2、H7～H16)
・県営畑地帯総合整備事業(H9～H20)
・強い農業づくり交付金(H20)

基盤

かんがい施設の整備を通じた用水の安定供給による花きの施設栽培の実現

用水の安定供給や区画整理により、大幅に労力の軽減が図られ、品質が高く収量の安定した花きの施設栽培が実現。

貯水槽

丘陵地に広がるビニールハウス

基盤整備
（S37年～H20年）

【整備前】
標高5mから50mに至る傾斜地に位置し、狭小かつ不整形な階段畑のため多大な労力を要していた。

整備前のほ場

整備前の階段畑

生産現場

気候を活かした出荷等による需要の確保

花きの施設栽培

○　温暖な自然環境を活かした花きの施設栽培を行っており、スターチスは市場出荷量の少ない11月～5月を狙って出荷。冬期の全国シェアにおいては、9割を占めている。

地域の取組

直営施工による対応

迅速な漏水修理

○　簡易な漏水修理を直営施工できるよう、技術力の維持向上体制を整備。

加工・流通

集出荷の一元化による規格の統一

大型集出荷施設

○　大型集出荷施設を整備し、集出荷を一元化することで、効率化によるコスト縮減と規格統一による品質向上を図る。

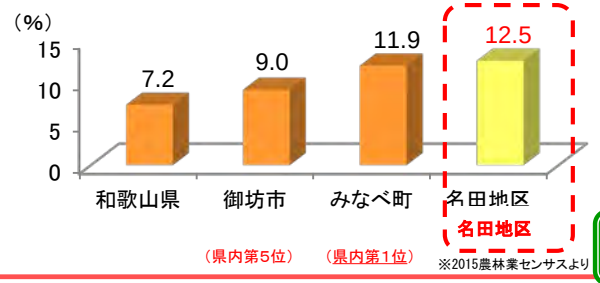
安定した農業収入で高齢化に歯止め

○　高収益作物の花き等を導入し、安定した農業収入を実現。

＜農業粗収益の推移＞

○　地区内農家の子供（14歳以下）の割合は、県内でトップクラスを誇る。

＜農家年齢構成（14歳以下の子供の割合）＞



農業用水の安定供給がもたらす「砂丘らっきょう」販売額の向上 【鳥取県鳥取市福部町（とっとりし ふくべちょう）】

国土強靭化 | 一億総活躍 | 地方創生

【工夫のポイント】

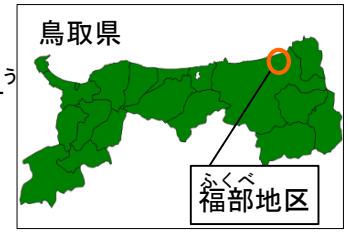
○ 生産基盤の整備により収量・品質を安定化させ、「砂丘らっきょう」のイメージ向上とブランド力を強化。

○ 「福部砂丘らっきょう10億円達成プラン」を策定し、高品質作物の安定供給に向けた施設整備等、多方面の取組を積極的に展開。

○ 地域一体となって営農に取組み、生産組合による規格・品質の統一化や農福連携による作業委託を実施。

【取組地域の概要】

○位置
鳥取県
鳥取市福部町（ふくべちょう）



○主要作物
・らっきょう
農家戸数：65戸、栽培面積114ha）

○主な支援施策
・ほ場整備(S40～S44)
・農業構造改善事業(S41～S45)
・県営かんがい排水事業(S45～S52)
・県営特定農業用管水路等特別対策事業(H24～H30)

砂丘地に広がるらっきょう畑

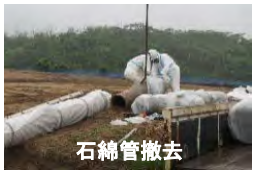
らっちゃん

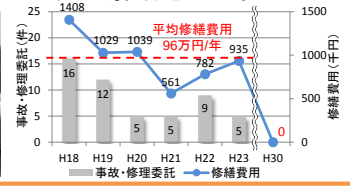
基盤

適切な水利用により収量・品質が安定化

○ 農業用管水路の更新により、漏水事故が減少し、安定的な水利用と適切な用水管理により収量・品質が高いレベルで安定した。

○ 管水路の改修が完了した平成30年度には、漏水事故がゼロとなり、維持管理の負担が大きく軽減され、健康被害への不安も解消された。


石綿管撤去



基盤整備
(H24年～H30年)

【整備前】
農業用管水路は、整備後40年以上が経過しており、老朽化により破損や漏水事故が頻発し、適切な水利用が行えず収量が不安定であった。

維持管理に年間約100万円を要し、石綿が含有された管水路の改修作業に対し、健康被害を不安視する声もあり、早急な対策が求められていた。

老朽管による漏水事故

生産現場

「砂丘らっきょう」ブランドの確立で高付加価値化

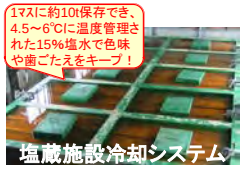
らっきょう

○ 甘酢漬けを「砂丘らっきょう」として商標登録、ブランド化。

○ 平成28年に「鳥取砂丘/ふくべ砂丘らっきょう」として県内初のGI（地理的表示）登録。

加工・流通

高品質作物の安定供給に向けた施設整備



塩蔵施設冷却システム

○ らっきょうの長期保存を目的に塩蔵施設冷却システムを導入し安定供給と周年出荷を実現。

○ 産地パワーアップ事業(H29)により加工品用の包装機械を整備。

担い手

地域一体の営農取組（生産組合、農福連携）

植付け作業

根切り作業

○ 福部らっきょう生産組合を設立し、規格・品質を高水準で統一。

○ H22から農福連携に取り組み、短期集中的に人手を要する植付けや収穫後の根切り等を9つの福祉法人等が受託。

【実施例】5月下旬～6月中旬の根切り作業
1事業所あたり 約6人×5時間×18日

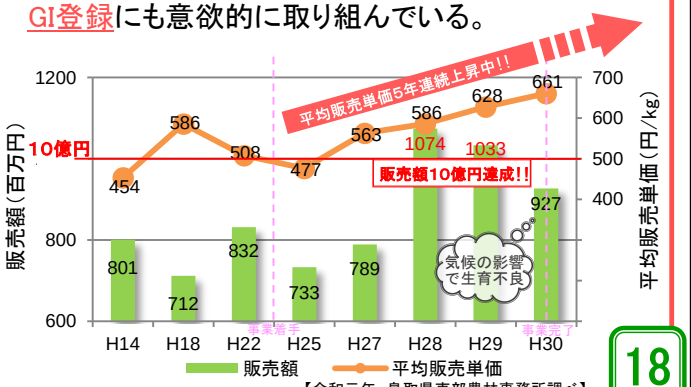
一大産地として更なる販売額の向上を目指す

○ 適切な水利用により収量・品質が安定し、多様な高付加価値化と相まって販売額、平均販売単価が上昇。

○ 平成28、29年度は目標である販売額10億円を達成。

○ 更なる販売額の向上に向け多様な商品を開発し、加工品としてのGI登録にも意欲的に取り組んでいる。

多様な加工品の開発



【令和元年 鳥取県東部農林事務所調べ】

法人設立による農地の集積・集約化、経営の多角化を実現

【島根県安来市（やすぎし）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

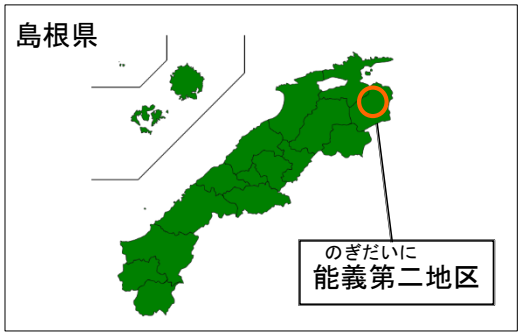
○　基盤整備を契機として、集落を超えた地域ぐるみの農事組合法人を設立し、農地の集積・集約化を推進。

○　地下かんがいシステムの導入による水田の汎用化により、2年3作体系を確立。

○　加えて、トロ箱栽培によるトマトの栽培に取り組み、女性の活躍の場を創出。

【取組地域の概要】

○位置
島根県安来市（やすぎし）（過疎）



○主要作物
・水稲、麦、大豆、菜種、キャベツ、トマト　等

○主な支援施策
・農業競争力強化基盤整備事業（H20～H27）

基盤

大区画化による営農や水管理の省力化を実現

大区画化や地下水位制御システム（FOEAS）により、大型機械の導入による生産コストの低減や、水位自動制御による水管理の省力化を実現。

大区画化されたほ場

地下水位制御システムの導入

基盤整備
（H20年～H27年）

【整備前】
大正時代に整備された12aの小区画、道路は狭小であり、大型機械の導入が困難であった。また、用水路も排水不良が生じていた。

狭小な農地

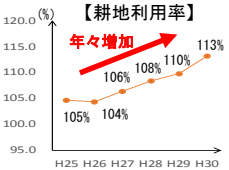
用排兼用の土水路による排水不良

生産現場

地下かんがいシステムによる生産体系の確立

○　地下かんがいシステムの導入により排水性が向上するとともに、きめ細かな水管理が可能となり、水稲・大豆・麦・菜種などを組み合わせた「2年3作」の生産体系を確立。

○　さらに、近年では、キャベツ栽培に取り組むなど、経営の多角化を実現。



担い手

法人設立と女性の活躍の場の創出

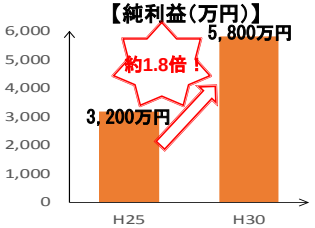
○　事業を契機に集落を越えた地域ぐるみの農事組合法人「のきの郷」（組合員数151名、経営面積151ha）を設立し、約9割の農地を集積・集約。

○　省力化により余剰労働力が創出されたことから、女性（9名）によるトロ箱を使用したトマトの栽培を導入。

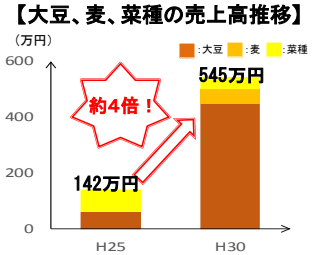
※トロ箱栽培：発砲スチロール製のトロ箱にヤシガラ等を培土として詰め、養液配管を設置して栽培する方法。軽量で安価なため、高齢者・女性でも容易に設置・移動が可能。

農業の競争力強化と経営の多角化を実現

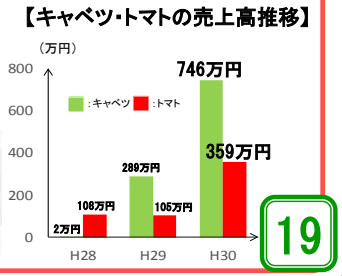
○　農地集積による生産コストの低減や経営の多角化により、法人の利益が大幅に増加。



○　農地の汎用化による2年3作型の生産体系の確立により、大豆・麦・菜種の売上高が大幅に増加。



○　さらに、新たに導入したキャベツやトマトにおいても、売上高が増加し、経営の多角化を実現。



中山間地域に新規就農者を呼び込むための基盤整備

【岡山県新見市（にいみし）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

- ○ 地域、市、ＪＡの連携により、家族経営によるトマト生産の新規就農者確保と定住促進を計画。
- ○ トマト栽培に適した基盤整備を実施し、新しい農地を用意。
- ○ ベテラン農家のきめ細かなサポートで、早期の収入増を実現。
- ○ 住居の斡旋など新規就農者を生活環境面でもサポート。
- ○ 地域の描く将来像と新規就農者のニーズが、基盤整備をとおしてマッチング！

【取組地域の概要】

○位置（にいみし）
岡山県新見市（特定農山村等）

○主要作物
・水稲、トマト

○主な支援施策
・中山間地域総合整備事業（H27～）

基盤

基盤整備と水源確保により地域が目指す営農を実現

基盤整備により、緩傾斜の農地を造成するとともに、水源を確保し安定的な農業用水を供給することで、高品質なトマト栽培を実現。

基盤整備
（H28年～H30年）

【整備前】

既存農地は急傾斜地にあり、また、用水の安定的な手当てがされていないことから、生産性が低く、担い手もつかない状況。

生産現場

施設の導入により安定した収量増を実現

○ 本地域の特産品である「桃太郎トマト」は、岡山県の日照量の多さや昼夜の温度差を生かし栽培することで、高い品質を実現。

○ ハウスや養液土耕設備の導入により、高収量を実現するとともに、9～10月の高単価期の出荷にも対応。

担い手

都市部からのIターン者が新規就農者として移住

○ 農家は高齢化が進み、1974年の250戸をピークに60戸まで減少していたが、新規就農者確保のため、地域は行政やJAと連携し、基盤整備や手厚い技術支援を実施。

○ 新規就農者は古民家での田舎暮らしを家族で楽しみつつ、地域行事への積極的な参加により、地域住民との信頼関係を構築。

新規就農者がモデル農家となり次世代の産地のけん引役を担う

○ 新規就農者の努力に加え、ベテラン農家の技術指導と施設導入により、高収量と高単価期の安定生産を実現し、新規就農者の所得向上。

【出典：JAあしんの資料をもとに岡山県農林水産部農村振興課作成】

○ さらに、経営面積の拡大や単価高騰もあり、新規就農者の販売額が、就農2年目にして目標の1千万円を突破！！

○ 新規就農者がモデル農家として、次の新規就農者の手本となり、次世代の産地のけん引役を担う。

大規模地震に備え、ため池耐震化整備により下流地域を守る！　【香川県観音寺市（かんおんじし）】

国土強靭化　一億総活躍　地方創生

【工夫のポイント】

○ 南海トラフ大規模地震の発生確率が高まる中、ため池密度が全国一の本県では、震度7が予測される地域もあり、ため池の耐震化対策は喫緊の課題。

○ 耐震性調査の結果、耐震性が確保されていないため池の耐震化整備を実施し、堤体の決壊及びため池下流域の被害を未然に防止。

【取組地域の概要】

○位置　香川県観音寺市（かんおんじし）（特農、山村）

○主要作物
・水稲、レタス、青ネギ　等

○主な支援施策
・老朽ため池等整備事業（H4～H5）
・震災対策農業水利施設整備事業
・耐震性点検調査（H25～H26）
・耐震補強工事（H29）

基盤

ため池決壊による浸水被害を防止

ため池耐震補強工事の実施により、ため池決壊のリスクを取り除き、下流域の安全を確保。

耐震化整備（H29年）

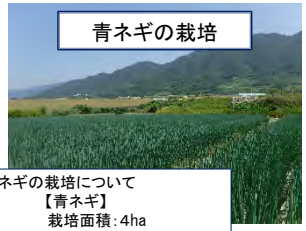
【背景】
降水量が少なく渇水の多い香川県では、農業用水の主要水源として、ため池を数多く築造。南海トラフ地震の発生が懸念される中、ため池の決壊により多大な被害が発生する恐れ。

（想定被害区域内には、農地のほか、集落、主要道路、JR、学校等が存在。）

生産現場

安心できる農業生産現場の確保

○ 耐震補強工事の実施により、受益37haを潤す水源が守られるとともに、下流農地で安心して農業生産を営める環境が整った。



《参考》レタス・青ネギの栽培について

【レタス】	【青ネギ】
栽培面積：16ha	栽培面積：4ha
生産額：7千万円	生産額：2千万円

地域の取組

市が防災学習会を開催

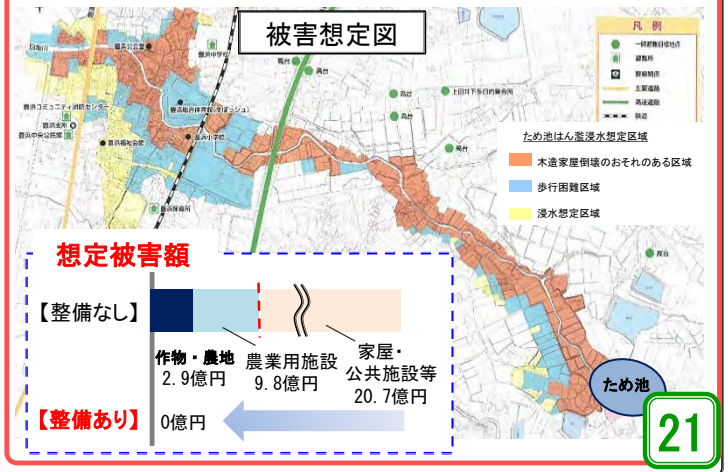
○ ため池ハザードマップの作成や耐震補強工事の実施により、地域の防災意識が向上。

○ 市が自治会集会場にて、ため池ハザードマップを用いた出前講座を実施し、住民にハザードマップの見方、活用方法を教授。

ため池ハザードマップを用いた出前講座の様子

浸水被害の未然防止と財政健全化への貢献

○ 耐震補強工事の実施により、農地や農業用施設はもとより、下流住民の生命、財産、公共施設への被害を未然に防止。

○ 事業実施により、被害想定額より安価に整備。
【被害想定額 33億円 ＞ 整備費 1.9億円】

○ 約33億円の想定被害を未然に防止。